

第4回保育について語ろうデーのお知らせ

令和元年7月31日(水) 実施しました！



香川大学教育学部 附属幼稚園 ・ 高松園舎

参加者：幼稚園教員 高松市 1名
さぬき市 4名
三木町 4名
小学校教諭 善通寺市 1名
三木町 1名

共に語りあった方：金子之史先生 片岡元子先生
松本博雄先生 吉川暢子先生

9:00	自己紹介
9:40	協議
10:40	事例検討
11:40	振り返り
12:00	終了



語り合ったことをお知らせします！

【作ったり描いたりする遊び(活動)をどのように展開していますか？】

「～な物を作ろう」と願って、準備や教材研究をすることはとても大切です。しかし、懸命に準備すればするほど「～つくらせたい」気持ちが強くなり、保育者が決めた作り方や材料、出来上がりのイメージ通りに作らせてしまうことはありませんか？また、掲示するために作品を作らせてしまって、作った物で子供たちが遊べない状況をつくってはいませんか？

では、一体どうすれば、作ったり描いたりする中で、子供たちの「もう一つ作りたい」「まだまだ作りたい」「今度は～作りたい」「作った物で遊びたい」などの思いが次々に生まれる保育が展開できるのでしょうか。自分の保育実践等をもとに考えていきました。

【事例より ～できるようになる過程に存在する子供の思いってどんなもの？～】

鉄棒を楽しむ5歳児の子供たちと共に過ごした日々の保育記録を振り返った時、子供たちの頑張る姿やできなかったことができるようになる姿ばかりに目を向け、言葉をかけていた自分に気付いた梶教諭。この振り返りをきっかけに、鉄棒に向かう子供たちが楽しんでいたことは何だろうか、自分が本当に嬉しいと感じた子供の姿はどのようなものだったのだろうか、今後どのように関わりたいと願うかなどについて記した事例をもとに語り合いました。

子供たちは、鉄棒の様々な技をどう捉えているのか、どんな経験があるから夢中になるのか、子供たち一人一人の変容や関係性の変化はどうだったのか等、様々な視点から考えていきました。

【語ろうデーに参加して感じたこと ～参加者アンケートより～】

- 「語ろうデー」はとても楽しかった。「当たり前」にしていた大人のルールを考え直す機会になったし、他園の先生と語り合って刺激をもらい、やる気が出た。(30代Aさん)
- 附属幼稚園のように、保育者の悩みや問題を解決し合っていけるような職場になるといいなと思った。どうすればいいのだろう・・・それを考えていきたい。(30代Bさん)
- 悩みながらも、心から子供たちと過ごすことが好きだと思っている参加者の話が魅力的だった。自分自身を捉え直すきっかけをもらった。(20代Cさん)

次回は、8月23日(金)附属幼稚園(坂出)です。